

年 頭 所 感

年 頭 所 感



福島県医師会会長

佐 藤 武 寿

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、新春を健やかに迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。皆様にとりまして輝かしい年でありますことを祈念いたします。

新型コロナウイルス感染症は昨年5月8日から5類感染症に位置付けられ、これまでの法律に基づく行政が関与する仕組みから一律に日常における基本的対策を求めないなど、個人の選択を尊重した自主的な取組を基本とした対応に変わりましたが、一定の流行は今後も続くと考えられますので、引き続き適切な対策のもと対応をお願いいたします。

感染者数の把握はこれまでの全数把握から県内82カ所の定点医療機関の協力による把握に移行しましたが、本会では会員医療機関のご協力のもと、定点把握ではつかみきれない1日単位の感染者数の増減の傾向を月曜日と木曜日に地域（郡市）ごとに把握し、スピー

ド感を持って本会ホームページ上等で公表することで、日常の診療において感染拡大等の傾向に応じた対応に資するため、独自調査に取り組んでまいりました。医療体制の充実・強化には会員の皆様の一層のご協力が不可欠でありますので、今後ともご理解をお願い申し上げます。

次に、福島県民の「健康長寿の延伸と健康格差の縮小」に向けた「健康ふくしま21計画」をさらに推進するため「健康長寿ふくしま会議」が設置されており、本会も構成団体として参画し積極的に意見具申するなどしてまいりました。今後策定される「第三次健康ふくしま21計画」においても県民の健康づくり対策の強化を一層図っていくことが重要であると考えますので引き続き各種取組を行ってまいります。

1. 県民の健康づくり支援等

(1) 健康づくり対策について

県民の健康指標の改善が進まないなか新

型コロナウイルス感染症の影響による活動制限などから、体力低下や心身の健康への影響が懸念されます。また、直近の指標によりますと本県は食塩摂取量が男女とも全国ワースト2位、メタボ率は全国ワースト4位など指標の悪化が続いており、急性心筋梗塞死亡率が男女とも全国ワースト1位や糖尿病が全国ワースト3位など全国的に健康指標が悪いことから、生活習慣の見直しを図るため、県民を対象とした健康づくりフェスティバルを開催するなど他団体とも連携を密にして正しい知識の普及啓発に引き続き取り組んでまいります。

(2) 受動喫煙防止の推進について

健康増進法の一部を改正する法律の全面施行により望まない受動喫煙を防止するための取組が、マナーからルールへと変わったことや「ふくしま受動喫煙防止条例」が施行されるなど、受動喫煙防止に関する機運が高まってきています。しかし一方で、福島県の喫煙率が全国ワースト1位という残念な結果が示されました。喫煙する人のみならず受動喫煙により周囲の人に悪影響を及ぼすことは明らかであることから、引き続き更なる受動喫煙防止対策の推進が必要です。毎年5月の「世界禁煙デー」「禁煙週間」、毎年11月の「世界COPDデー」にあわせたイエローグリーンキャンペーン普及活動及び各種イベントや市民公開講座の開催など「一般社団法人 Tobacco-free ふくしま」をはじめとした関係団体とともに正しい知識の普及啓発に積極的に取り組んでまいります。

2. 地域医療対策の推進

(1) 医師の働き方改革について

本年4月から医師の時間外労働の上限規制の適用が開始されます。医師の勤務環境改善を「健康確保」「地域医療の継続性」

及び「医療・医学の質の維持・向上」を基本理念に県医療勤務環境改善支援センターが中心となって、各医療機関への相談体制の強化を図るとともに研修会を開催するなど、勤務環境改善の更なる対策に取り組んでまいります。

(2) 医業承継バンクについて

県からの委託によって平成30年から事業を開始し、県外からの移住を含め、これまで14件（令和5年12月1日現在）の医業承継が成立しました。積極的な普及啓発活動により「福島県医師会医業承継バンク」の認知度も向上しており、開業希望68件、譲渡希望52件（令和5年12月1日現在）と登録数が増加しています。今後も更に事業の周知を図るとともにマッチングを支援し、廃業に伴う地域の医療資源の減少を防ぐため積極的に取り組んでまいります。

3. 新興・再興感染症への取組

令和5年度中の策定を予定されている「第8次医療計画」の中に新たに6事業目として「新興感染症発生・まん延時における医療」対策が盛り込まれます。

新型コロナウイルス感染症対応の教訓を踏まえ、感染症のまん延による「医療崩壊」を防ぐための新興感染症等への対応と通常医療とが両立できる医療提供体制を確保することが重要であります。病院・診療所の役割分担等の対応を郡市地区医師会、県行政と密な連携を図り新興感染症等に対する医療提供体制の構築を推進してまいります。

4. 災害医療対策への取組

近年、激甚化している豪雨、台風災害や福島県沖を震源地とする大地震などの自然災害は今後も高い確率で起こることが予想されています。昨年はいわき市に短時間に大雨をもたらす線状降水帯が県内で初めて発生し、局

地的な豪雨による被害がもたらされました。今後起こりうる大規模自然災害に備えて引き続き福島JMAT研修会を開催するとともに、福島JMATチームの体制整備を行い、災害への対応力の向上を図ってまいります。

5. 医師会の組織強化の取組

日本医師会では、昨年度より会費減免対象を「臨床研修医」から「医学部卒業後5年目まで」に延長し、県医師会と郡市地区医師会でも同様の措置を取るなど様々な取組が行われた結果、会員数も増加しております。このような取組は本県医師会においても「郡市地区医師会組織強化担当役職員連絡協議会」を昨年も開催し、会費減免に関する協力及び組織強化に向けた協力依頼をしております。本年は更なる理解促進を図るとともに、臨床研

修病院や医学生・臨床研修医への加入促進に向けた取組を展開してまいります。

県医師会といたしましては県民の健康と命を守るため、今後とも郡市地区医師会と連携を密にしながら、県行政や県立医科大学及び関係団体等と一体となって地域医療に係る課題解決に向けて取り組んでまいります。

また、サイバーセキュリティ対策を含む医療DXの推進に伴い、医療機関における効率化と負担軽減、医療サービス向上への取組が実施できるよう関係機関等と協力しながら支援してまいります。

本会が実施する事業等の運営には引き続き会員各位のご協力とご理解が不可欠でありますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

